



# ALPA Japan NEWS

発行：Air Line Pilots' Association of Japan

日本乗員組合連絡会議

AAP 委員会

〒144-0043

東京都大田区羽田 5-11-4

[alpaijapan.org](http://alpaijapan.org)

## 日 乗 連 ニ ュ ー ス

Date 2025.03.05

48AJN17

## 全国医師連盟シンポジウム

-世界初の消費者事故調査ガイダンス ISO5665 の発行を受けて-

### 「日本の事故調査をどう変えるべきか」

日乗連 AAP 委員講演



2025年1月26日、東京有楽町の東京国際フォーラムで「日本の事故調査をどう変えるべきか？」をテーマに全国医師連盟がシンポジウムを開催しました。会場では全国医師連盟（全医連）の榎木英介代表理事、主婦連合会（主婦連）の河村真紀子会長、日乗連 AAP（事故対策）委員会の館野洋彰テクニカルアドバイザーが講演を行いました。

日本の医療界では 2015 年に医療事故調査制度が始まりましたが、調査の過程において個人の責任が追及されるケースもあり、全医連は医療分野における事故調査も、責任追及ではなく「ISO5665」（国際標準規格）に基づいた調査が行われるべきと訴えました。

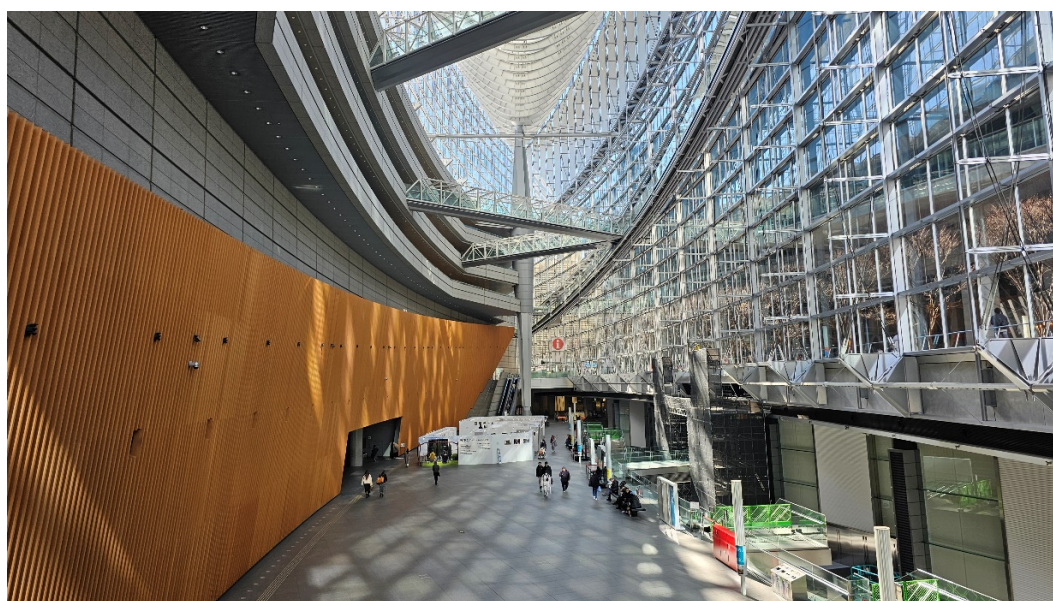


主婦連からは「シンドラ社エレベーター事故」「ふじみ野市プール事故」「日航 MD11 機乱高下事故」等の事故調査の問題点、更に「新しい事故調査機関実現 ネット（事故調ネット）」設立の経緯が説明されました。事故調ネットは主婦連代表の他、弁護士、医師、事故被害者家族、消費者事故関係者、日乗連代表で構成され、消費者事故の安全に関する議論を重ねています。更に国際標準化機構（ISO）においては「消費者事故調査」に関するガイダンスの必要性を訴え、2024年4月19日には「ISO5665」（消費者事故調査--要求事項とガイダンス）の発行に至りました。これは日本が提唱した、世界で初めての「消費者事故調査の国際標準」となりました。

日乗連からは、最近の事故事例として2024年に羽田で発生した日航516便事故、韓国で発生したJeju航空事故などの解説、緊急脱出の問題点、ヒューマンエラー、疲労と安全、安全リスク管理、リスクと社会心理、航空事故と刑事責任、今後の課題等について講演を行いました。講演後、参加者から刑事責任や免責制度に関する質疑が寄せられ、医療界の現状について活発な質疑応答が行われました。

日乗連 AAP 委員会は「航空界の安全向上には日本の社会全体の安全意識の向上が不可欠」との考えのもと、航空分野のみならず、広く社会との共同した安全への取り組みを続けています。その一環として消費者事故調査に関しても、国際民間航空条約機構（ICAO）の理念に基づき今後も取り組みを強化していきます。

以上



<会場の東京国際フォーラム>